

高等学校地歴科（日本史）『県史』資料活用展開例

「満州と山梨県」

1 活用資料・展開例に対応する、学習指導要領高等学校地理歴史科（日本史探究）の目標

学習指導要領（抜粋）

地理歴史科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

日本史探究の目標

- (1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 県史アンケート結果と対応する活用資料の項目

- | | |
|-----------|------------------|
| ・水害・治水 | ・地域の発展に尽くした先人の業績 |
| ・地域に残る文化財 | ・甲府空襲 |
| ・戦時下の暮らし | ・戦国武田三代 |
| ・甲斐源氏 | ・身延山と日蓮 |
| ・幕末・維新の山梨 | ・天保郡内騒動 |
| ・富士川船運 | ・甲府城・城下町 |

3 内容（3）のウに該当する『山梨県史』

- 近現代 通史編 5 近現代 1 通史編 6 近現代 2
資料編 14 近現代 1（政治行政）
資料編 15 近現代 2（政治行政）
資料編 16 近現代 3（経済社会）
資料編 17 近現代 4（経済社会）
資料編 18 近現代 5（経済社会）
資料編 19 近現代 6（教育文化）

4 (3)の「近代日本の歩み」活用資料(例)

| 学習指導要領該当項目 | 活用可能資料 |
|--|---|
| 内容 日本史探究D 近現代の地域・日本と世界 | |
| <p>【両大戦をめぐる国際情勢と日本】</p> <p>・経済・社会について</p> <p>・関東大震災について</p> <p>・米騒動について</p> <p>・満州について</p> | <p>通史編5近現代1 P540～P567 通史編6近現代2 P3～P47</p> <p>通史編6近現代2 P81 表1-4 「米価と繭価の変動」 P82 表1-5 「生産物物価の推移」</p> <p>資料編17巻 史料39・40</p> <p>通史編6近現代2 P557～P567 通史編6近現代2 P577～P581</p> <p>通史編6近現代2 P553～P556 資料編17巻 史料31・32・33</p> <p>通史編5近現代1 P549～P553 資料編17巻 史料28・29</p> <p>通史編6近現代2 P233～P239 資料編15巻 史料51・52・53 資料編15巻 史料34・35 資料編17巻 史料112</p> <p style="text-align: right;">など など など など</p> |
| <p>・その他</p> | <p>口絵 資料編17 若尾銀行上株式 資料編17 全国農民組合山梨県連合会ステッカー など</p> |

今回使用資料

(活用資料)

- ・『山梨県史』
- 通史編6近現代2
- P81 表1-4 「米価と繭価の変動」
- P82 表1-5 「生産物物価の推移」
- P104～P110
- P83～P86
- P87～P91
- P233～P239
- 資料編15巻資料57
- 資料編15巻資料35
- 資料編17巻資料112

5 展開例

目標

- ・山梨の満州移民の実態を知り、郷土の歴史に関心を持をもつとともに、なぜ、日本が満州へ進出したのかを考えさせる。
- ・恐慌の時代から満州事変、満州国建国までの流れを山梨県の歴史と関連付けて理解させる。
- ・日本が軍国主義へ進んでゆく流れを「軍部の台頭」や「国内事情」と結びつけて考えさせる。

| | 学習内容 | 生徒の活動 | 提示資料 | 留意点等 |
|-------------|---|---|---|---|
| 導入 (10) | <ul style="list-style-type: none"> ・満州移民政策と山梨県 ・満州の位置 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み、山梨から満州に渡った人々がいたことを知り、時期に着目する。 ・地図で位置を確認する。 | 通史編6近現代2 P 2 3 3 資料編15巻資料5 1・5 2・5 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料はあつかいやすいところを抜粋する。 ・昭和7・13年の資料であることに注意を払う。 ・歴史地図を用いる。 |
| 展開 (30) | <ul style="list-style-type: none"> ・昭和4年～6年にかけての繭価等の暴落について ・戦後恐慌 関東大震災 金融恐慌 世界恐慌 昭和恐慌の流れ。(1920～1930) | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を確認する。(第1次世界大戦～満州国・終戦) ・表について気がつくことを自由に発表する。 ・表の時代の日本や世界の経済状況を理解する。 ・年表の作成・事項の確認をする。 | 通史編6近現代2 P 8 1、P 8 2 表1-4・1-5 | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単に説明する。 ・特に原因について考えさせる ・経済の流れのみを確認する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・1920～1930年ころまでの政治と外交 | <ul style="list-style-type: none"> ・内閣の変遷と政策を確認する。(恐慌の変遷と合わせる) | | <ul style="list-style-type: none"> ・田中義一内閣・浜口雄幸内閣を主とする。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・満州某重大事件 ・「満蒙は日本の生命線」 ・満州事変・上海事変 ・「満州国」建国 ・日中戦争 | <ul style="list-style-type: none"> ・年表の作成・事項の確認。 ・大陸への侵略が拡大していくことを理解し、軍部の勢力が強まることに気づかせる。 ・世の中の風潮も指示していくようになっていく様子を理解する。 | 通史編6近現代2 P 9 0～P 9 1 資料編15巻資料3 4・3 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・政府と軍の意思の疎通がなくなっていることに気づかせるようにする。 |
| まとめ (10) | <ul style="list-style-type: none"> ・戦争の終わりと移民 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時内容を振り返り、資料を読んで、自分の考えをまとめる。 | 通史編6近現代2 P 2 3 5～P 2 3 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントを押さえて資料の提示を行う。 |

史料ア

(満州移民政策の展開)

昭和6年の満州事変後、満州農業移民は政治上・軍事上の理由から重要な国策となった。政府は1000万戸の移住計画を樹立し、その実現を期することとなる。移民は、国内的には農村の経済更正を図るための人口調整政策の一環とされた。昭和恐慌で苦しんでいた本県は、国の政策に即応して移民計画を拡大強化することとなる。(中略)満州移民は、満州事変直後の昭和7年、第一次武装移民を送出することで始まる。本県からの移民は同8年7月第二次開拓団としてはじめて26戸入植し、以後9年8戸、11年3戸・・・であった。このような送出状況について、県経済部は「本県ニ於ケル満州農業移民ハ現在未ダ百戸ニ満タザル現況ニシテ国策移民ノ線ニ副ハザルコト遙ニ遠キモノアルハ遺憾ノ次第ナリ」(資料編17巻資料110)と述べている。(中略)また、「大和民族発展ノ大使命ヲ敢行セントスル優秀ナル花嫁ヲ養成スル」目的で満蒙開拓花嫁学校を開設し、・・・以下略。
(通史編6近現代2P233～P234から抜粋)

史料イ

[満蒙移民熱に県は移民計画樹立を急ぐ] 『山梨日日新聞』昭和7年3月16日

満州に於ける、日支間の問題が一段落を告げ、これに代わって今度、満蒙移民に対する平和戦士の登壇の段取りとなった。帝国の満蒙に対する統制ある大植民政策はまだ樹立の運びとならず、従って何年には何万の人間を同地に送りこむかの具体的案は出来ていないが、澎湃としてみなぎりつゝある移民熱にどう善処するか、芝辻知事は・・・(中略)この移民熱を盛りたて助成することは国の大方針に翼賛する所以であり、本県としても人口食糧問題はやうやく矢釜しくならんとしてゐる際であるから、寧ろ従来のブラチルに対する移民計画を、此方面に転向集中せしめるを得策としてゐる次第であって・・・以下略

(資料編15巻資料51から抜粋)

史料ウ

[満州移民第七次先遣隊員檄文] 『山梨青年』昭和13年3月1日
大陸は招く

満州移民第7次先遣隊 M

一 懐かしき山梨の諸君!

暴戾支那鷹懲の剣を取つてより半歳、北支に中支に上海に血河死山を越へ或は炎熱燃ゆる長城に攀じ或は朔風肌を劈く曠野を駈け連戦連勝実に皇軍の向ふ所敵無きが如く威武正に天を衝くの戦線を忍び、砲丸弾雨の中に逝く護国の英霊を祭りて朝に夕べに戦勝を祈りつゝ、出征軍人の歓送に、遺族の慰問に将又乾草の採取に夜を日に次ぎ、東奔西走只管銃後につくす諸君等が姿を想いては唯感涙に咽んで居ります。故国を出て半歳髣髴と浮ぶ諸君等の姿を忍びつゝ、今丘陵迫る大頂子山の麓長々氷る・・・(後略)。

二 正義の警鐘を乱打し百年の迷夢より支那民族を呼び醒し・・・(中略)・・・、平和の陣頭に立つ大和民族の使命を双肩に担ふ我等青年は今こそ二十世紀の歴史を飾るべく大舞台に現れたのだ。 以下略

(資料編15巻資料53から抜粋)

【語注】

暴戾(ぼうれい) 荒々しく道理にはずれること。
鷹懲(ようちょう) 敵に大打撃を与え、二度と戦争が出来ないように、こらしめること。
攀じ(はんじ) よじのぼる。
朔風(さくふう) 北の風。
劈く(つんざく) 手や爪で削く。強く破る。
曠野(こうや) 広野。
髣髴(ほうふつ) ありありとと思い浮かぶさま。
大頂子山 中国黒竜江省にある山。

史料工

【その他史料】

* 通史編 6 近現代 2 P 90 から

国際社会の反対を押し切って満州国を建国した後も、軍部は野心を膨らませて、満州から中国華北への浸透を画策した。かくして昭和十一年はじめ、甲府歩兵第四十九連隊を含む第1師団の満州移住が決まった。その直後に、同師団第一連隊・第三連隊などの青年将校たちが、部下を率いて閣僚・重臣らを殺害する二・二六事件を起こした。(中略)甲府連隊も緊急出動命令を受け、完全武装で上京した。(中略)・・・連隊は、甲府に戻ってまもなく五月八日、軍旗を先頭に県民の盛大な見送りを受けて特別軍用列車で甲府を出発し、六月十七日北満北安に着き、一部はさらにソ連軍と対峙する北の最前線黒河に配備された。

* 資料編 1 5 巻資料 3 5 から

熱き銃後の真心あれば満州吹雪も何のその
銃後固けりやお国の為に心置なく花と散る

【参考】

* 通史編 6 近代 2 P 239 から

敗戦と満州移民

農業開拓移民として渡満した人々は、昭和二十年八月九日ソ連軍の侵攻により悲惨な状況に突き落とされる。南巨摩郡増穂(現増穂町)分団開拓団は、ソ連軍と現地人の襲撃で一四八人中三八人が死亡、(中略)郷土に帰れたのは一〇三人であった。・・・(中略)特に惨状が甚だしかったのは前述した豊村の分村である。豊村分村開拓団には八月十三日に大量の召集令状が届き、老人と子供ばかりが村に残されたところに、現地武装ゲリラに襲われ絶望的な状況となった。(中略)十六日の戦闘で「既に弾薬尽き、重軽傷者半数に及び、戦力著しく低下したので、之以上の抗戦は無謀であるし、重軽傷者を同道しての脱出は不可能であるので、一同自決するに決し、午後三時所在人員一四一名、本部建物に集合し、中央に集積したダイナマイトに点火、自決した」(後略)

豊村分村開拓団については、資料編 1 7 巻資料 1 1 2・1 1 3
および通史編 6 近現代 2 P 234 ~ P 239 を参照。

表 A 米価と藨価の変動
単位：円

| 年 | 米 価 | 藨 価 |
|------|-------|-------|
| 大正12 | 32.86 | 10.02 |
| 14 | 36.08 | 10.56 |
| 昭和2 | 26.97 | 6.37 |
| 3 | 26.91 | 6.72 |
| 4 | 26.26 | 7.21 |
| 5 | 15.57 | 3.00 |
| 6 | 14.94 | 2.91 |
| 7 | 19.18 | 3.33 |
| 8 | 18.46 | 5.56 |
| 9 | 24.00 | 2.42 |
| 10 | 26.09 | 4.33 |
| 11 | 26.07 | 5.07 |

註) 米は1石当たり平均価格、
藨は上藨1貫当たり平均価格。
(「山梨県統計書」より作成)

表 B 生産物価額の推移

| 年 | 農産物 | 畜産物 | 林産物 | 水産物 | 工産物 | 鉱産物 | 計 |
|------|--------|-------|--------|-----|--------|-------|---------|
| 大正14 | 59,352 | 2,024 | 10,045 | 123 | 77,011 | 596 | 149,151 |
| 15 | 47,623 | 1,726 | 5,064 | 127 | 62,887 | 931 | 118,358 |
| 昭和2 | 42,298 | 1,689 | 7,583 | 188 | 57,296 | 748 | 109,802 |
| 3 | 42,782 | 1,784 | 9,169 | 164 | 65,664 | 782 | 120,345 |
| 4 | 47,464 | 1,776 | 6,593 | 269 | 63,039 | 845 | 119,986 |
| 5 | 27,828 | 1,390 | 5,733 | 166 | 42,665 | 573 | 78,355 |
| 6 | 23,736 | 1,362 | 4,742 | 151 | 37,500 | 243 | 67,734 |
| 7 | 25,842 | 1,230 | 4,997 | 275 | 43,825 | 600 | 76,769 |
| 8 | 39,198 | 1,385 | 6,416 | 322 | 43,879 | 850 | 92,050 |
| 9 | 27,025 | 1,480 | 7,540 | 324 | 43,382 | 949 | 80,700 |
| 10 | 34,590 | 1,642 | 7,319 | 446 | 53,849 | 999 | 98,845 |
| 11 | 43,163 | 1,829 | 9,430 | 494 | 59,267 | 1,158 | 115,341 |
| 12 | 47,532 | 2,120 | 12,387 | 841 | 57,400 | 1,279 | 121,559 |

註) 当年価格。単位は千円(千円未満切り捨て)。大正14年～昭和5年の農産物価額は「山梨県統計書」の「生産物総価額」から「桑葉」を除いて算出。(「山梨県統計書」より作成)

通史編 6 近現代 2
P 81 表 1 - 4

「米価と藨価の変動」

通史編 6 近現代 2
P 82 表 1 - 5

「生産物物価の推移」

プリントNO.00番 第1次世界大戦～満州国建国まで

1 史料イ・ウについて

史料はそれぞれ、いつのものか。

ア 昭和 () 年・・・西暦 () 年
 イ 昭和 () 年・・・西暦 () 年

2 表Aと表Bについて気が付いたことを簡単にまとめよう

3 プリントの右の年表や内閣の変遷をみて日本が満州事変を起した理由をいくつか考えてみよう。

4 満州事変から終戦まで

1933年 7月
 1933年 1月
 1933年 3月
 1933年 7月

事変ははじまる。
 建國。おこる。
 事件ははじまる。
 戦争に費成ったか？

5 「満蒙は日本の生命線」といわれた理由を、今日学習した内容をふまえて考えてみよう。

〈年表〉 第1次世界大戦は西暦 () 年・・・昭和 () 年

* 西暦を昭和にするには

西暦 - 経済的諸問題 国内事情 国際社会

大戦後、ワシントン会議が連打。
 サインキの動向

| | | | | |
|---------|-------|-----|----|----|
| 1920.3 | 恐慌 | () | 休業 | 恐慌 |
| 1923.9 | () | () | 実施 | |
| 1927.3 | 恐慌 | () | | |
| 1929.4 | () | | | |
| 1929.10 | | | | |
| 1930 | 恐慌 | | | |
| 1931 | 恐慌深刻化 | | | |
| 9 | はじまる | | | |

この時期の内閣の変遷

(原→高橋→加藤→山本 (2) →若槻 (1) →田中→若槻 (2) →犬養)

* 「協調外交路線」と「中国大陸への進出」の矛盾下の2人首相の時の出来事を簡単に書き上げよう。
 田中義一内閣(1927.4～1929.7)

浜口雄幸内閣(1919.7～1931.4)

* 浜口雄幸は、なぜ東京駅で狙撃されたのだろうか？